

2021年12月期 決算短信〔IFRS〕(連結)

2022年2月4日
東

上場会社名 クックパッド株式会社 上場取引所
 コード番号 2193 URL <https://info.cookpad.com/>
 代表者 (役職名) 代表執行役 (氏名) 岩田 林平
 問合せ先責任者 (役職名) 執行役 (氏名) 犬飼 茂利男 (TEL) 050-3142-1532
 定時株主総会開催予定日 2022年3月25日 配当支払開始予定日 —
 有価証券報告書提出予定日 2022年3月28日
 決算補足説明資料作成の有無 : 有
 決算説明会開催の有無 : 有 (機関投資家・アナリスト向け)

(百万円未満切捨て)

1. 2021年12月期の連結業績 (2021年1月1日～2021年12月31日)

(1) 連結経営成績

(%表示は対前期増減率)

	売上収益		営業利益		税引前当期利益		当期利益		親会社の所有者に帰属する当期利益		当期包括利益合計額	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2021年12月期	10,004	△9.8	△2,632	—	△2,595	—	△2,968	—	△2,380	—	△2,169	—
2020年12月期	11,095	△5.6	227	△25.9	210	△21.7	211	—	479	—	△102	—

	基本的1株当たり 当期利益	希薄化後1株当たり 当期利益	親会社所有者帰属 持分当期利益率	資産合計税引前利 益率	売上収益営業利益 率
2021年12月期	円 銭 △22.41	円 銭 △22.41	% —	% △10.3	% △26.3
2020年12月期	4.46	4.46	2.1	0.8	2.0

(2) 連結財政状態

	資産合計	資本合計	親会社の所有者に 帰属する持分	親会社所有者 帰属持分比率	1株当たり親会社 所有者帰属持分
2021年12月期	百万円 23,863	百万円 21,631	百万円 21,029	% 88.1	円 銭 201.22
2020年12月期	26,512	24,513	23,323	88.0	216.74

(3) 連結キャッシュ・フローの状況

	営業活動による キャッシュ・フロー	投資活動による キャッシュ・フロー	財務活動による キャッシュ・フロー	現金及び現金同等物 期末残高
2021年12月期	百万円 △1,772	百万円 △336	百万円 △1,094	百万円 20,410
2020年12月期	610	△165	△428	22,685

2. 配当の状況

	年間配当金					配当金総額 (合計)	配当性向 (連結)	親会社所有者 帰属持分配当率 (連結)
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計			
2020年12月期	円 銭 —	円 銭 0.00	円 銭 —	円 銭 0.00	円 銭 0.00	百万円 —	% —	% —
2021年12月期	—	0.00	—	0.00	0.00	—	—	—
2022年12月期(予想)	—	0.00	—	0.00	0.00	—	—	—

3. 2022年12月期の連結業績予想 (2022年1月1日～2022年12月31日)

当社グループは、日本を含む世界中の人々に向けて「毎日の料理を楽しみにする」サービスを提供するべく積極的に投資を行っています。2022年12月期の連結業績予想については、引き続き新規事業への投資が先行する予定です。その投資の時期や金額規模については、事業を取り巻く環境の変化に応じて機動的に判断していく想定であるため、記載しておりません。

※ 注記事項

(1) 期中における重要な子会社の異動（連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動）： 無

(2) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更

- ① IFRSにより要求される会計方針の変更： 無
 ② ①以外の会計方針の変更： 有
 ③ 会計上の見積りの変更： 無

(3) 発行済株式数（普通株式）

① 期末発行済株式数（自己株式を含む）	2021年12月期	107,429,400株	2020年12月期	107,429,400株
② 期末自己株式数	2021年12月期	3,219,061株	2020年12月期	4,011株
③ 期中平均株式数	2021年12月期	106,165,802株	2020年12月期	107,425,401株

(参考) 個別業績の概要

1. 2021年12月期の個別業績（2021年1月1日～2021年12月31日）

(1) 個別経営成績 (%表示は対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2021年12月期	9,534	△10.5	△1,709	—	△1,242	—	△1,427	—
2020年12月期	10,649	△6.3	733	△58.4	605	△66.8	406	—
	1株当たり 当期純利益		潜在株式調整後 1株当たり当期純利益					
	円 銭		円 銭					
2021年12月期	△13.45		—					
2020年12月期	3.78		3.78					

(2) 個別財政状態

	総資産		純資産		自己資本比率		1株当たり純資産	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭	%
2021年12月期	24,924	95.1	23,761	95.1	23,761	95.1	227.43	95.1
2020年12月期	27,314	94.7	25,901	94.7	25,901	94.7	240.74	94.7

(参考) 自己資本 2021年12月期 23,701百万円 2020年12月期 25,862百万円

※ 決算短信は公認会計士又は監査法人の監査の対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

(連結業績予想について)

サマリー情報「3. 2022年12月期の連結業績予想（2022年1月1日～2022年12月31日）」に掲げた理由から、業績予想については記載していません。

(決算説明会資料について)

決算短信に加えて、「2021年12月期決算説明会」のプレゼンテーション動画や説明会の資料は、当期決算短信の適時開示後、当社ホームページに掲載します。

○添付資料の目次

1. 経営成績等の概況	2
(1) 当期の経営成績の概況	2
(2) 当期の財政状態の概況	3
(3) 当期のキャッシュ・フローの概況	4
(4) 今後の見通し	4
(5) 利益配分に関する基本方針	4
2. 会計基準の選択に関する基本的な考え方	4
3. 連結財務諸表及び主な注記	5
(1) 連結財政状態計算書	5
(2) 連結損益計算書及び連結包括利益計算書	7
(3) 連結持分変動計算書	9
(4) 連結キャッシュ・フロー計算書	10
(5) 継続企業の前提に関する注記	12
(6) 連結財務諸表に関する注記事項	12

1. 経営成績等の概況

(1) 当期の経営成績の概況

2021年12月期連結会計年度（2021年1月1日～2021年12月31日）の業績は、以下のとおりです。

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (自 2020年1月1日 至 2020年12月31日)	当連結会計年度 (自 2021年1月1日 至 2021年12月31日)	前期比
売上収益	11,095	10,004	△9.8%
営業利益(△損失)	227	△2,632	－%
税引前当期利益(△損失)	210	△2,595	－%
親会社の所有者に帰属する 当期利益(△損失)	479	△2,380	－%

当社グループは「毎日の料理を楽しむにする」というミッションの下、日本のみならず世界中の料理のつくり手を増やすべく、料理に関する様々な課題解決に向けた積極的な投資を行っています。このミッションについて、当社グループの事業活動の目的・存在意義を明確にするため、定款に「当社は、『毎日の料理を楽しむにする』ために存在し、これをミッションとする。」「世界中のすべての家庭において、毎日の料理が楽しみになった時、当社は解散する。」という記載をしています。

世界中の人々の生活は資本主義体制の中で非常に豊かになりました。貧困に悩む人は減り、医療技術の革新により人類の寿命は長くなりました。しかしながら、生活は豊かになりましたが、肥満や生活習慣病、バーチャルな人間関係の偏重がもたらす心の病は増加しました。また、「地球」の健康という意味でも、CO2排出量の増加、オゾン層の破壊、土壌や海洋の自浄作用を超えた汚染等大きな犠牲を払ってきました。

外食やデリバリーの普及によって、安くて美味しいものが手軽に食べられるようになりましたが、それらの食品を流通させるために、多くの森林が伐採され、ゴミも増え続けています。結局、今まであった問題を解決する中で、また新たな問題を作っているに過ぎないのではないかと当社グループは考えています。

ひとの健康に必要なものは、食事、運動、睡眠といわれています。世界でもっとも頻度高く行われている社会活動は、家族での食事です。つまり食は、地球にも、ひとにも、社会にも大きな影響を与えているといえます。この食の良し悪しが地球と、ひとと、社会のこれからの分岐点になると思っています。

当社グループは、食の世界を良くするには、「つくり手を増やすこと」が重要だと考えています。資本主義社会では、どうしても利益の追求が優先され、結果、地球の未来を犠牲にすることが多くなりますが、つくり手になると様々な「気づき」が増え、より正しいと思う考えに基づいて「自ら変える力」が強くなります。「つくり手」で居続けてもらうためには、料理が楽しみに、それも、毎日楽しみになる仕組みづくりが必要だと思うのです。料理をもっとクリエイティブで楽しいものにしたい。「つくること」をワクワク楽しいことにしたい。「作業」ではなくどンドンうまくなるものにしたい。料理をとおして、他の人とのつながりが楽しみとなり増えていくようにしたい。そんな風に考えています。

世界中の70億人の中には、すでに料理を楽しんでいる「つくり手」がたくさんいます。そのひとたちのエネルギーや、知恵や、思いや、気持ちが人々を励まし助けになるようなコミュニティをつくりたいと思っています。

新型コロナウイルス感染症が流行し始めてから2年が経過し、世界中の人々の「新しい生活様式」の働き方やライフスタイルは大きく変わりました。未曾有の危機において、心身の健康を維持することの難しさにも直面することになりました。当社グループはこのような環境下でも、個人の生産性を高め、プロダクト開発及び事業推進を加速し、人々の生活に必要な不可欠なサービスとなることを目指す中で、「つくり手」や生活者との物理的距離を縮め、料理に関する様々な課題に迅速に対応する必要性を感じ、本社を2021年5月、神奈川県横浜市のWeWorkみなとみらいに移転、在宅勤務やWeWorkの他拠点での勤務を組み合わせる新しい働き方を開始しました。

今後とも当社グループは地球、ひと、社会、の健康を「毎日の料理を楽しむにする」ことによって実現し、企業価値の向上と株主価値の最大化に向けて邁進していきます。

当社グループは、国内においては、料理レシピ検索・投稿サービス「クックパッド」をはじめ、買い物をもっと自由にする生鮮食品EC「クックパッドマート」、料理が楽しくなるマルシェアプリ「Komerco」、料理動画サイネージ「cookpad store TV」や、有名人と一緒に料理を楽しめる「cookpadLive」等の運営を行っています。海外においては、「クックパッド」のグローバルプラットフォームを、世界73カ国、31言語（日本を除く）で展開しています。

当連結会計年度における売上収益は10,004百万円（前期比9.8%減）となりました。これは国内レシピサービス会員売上及び国内レシピサービス広告売上において、売上収益が減少したことによります。販売費及び一般管理費は12,243百万円（前期比16.3%増）となりました。これは主に、国内の新規事業に積極的な投資を行っていること、及び為替の変動により海外の費用が増加したこと等によります。この結果、営業損失は2,632百万円（前期は227百万円の利益）税引前当期損失は2,595百万円（前期は210百万円の利益）となりました。親会社の所有者に帰属する当期損失は、法人税等の計上及び繰延税金資産の取り崩しに伴う法人税等調整額の計上があった一方で、CookpadTV株式会社において非支配持分に帰属する当期損失が発生したことにより、2,380百万円となりました。

当社グループは、「毎日の料理を楽しむにすること」の単一セグメントであります。売上収益の内訳は、以下の通りです。

(単位：百万円)			
	前連結会計年度 (自 2020年1月1日 至 2020年12月31日)	当連結会計年度 (自 2021年1月1日 至 2021年12月31日)	前期比
毎日の料理を楽しむにすること	11,095	10,004	△9.8%
国内レシピサービス会員売上	7,323	6,943	△5.2%
国内レシピサービス広告売上	2,818	2,080	△26.2%
その他売上	953	980	2.8%

当連結会計年度における国内レシピサービス会員売上は6,943百万円（前期比5.2%減）となりました。これは主に、2021年3月下旬より各通信キャリアが提供を開始した低価格プランに移行したユーザーがキャリアによる月額課金決済を継続できない状況となり、自動退会となったことでプレミアム会員数が183.2万人（前期末は200.8万人）となったことによります。

当連結会計年度における国内レシピサービス広告売上は2,080百万円（前期比26.2%減）となりました。これは主に、「クックパッド」に掲載するバナー広告の売上が減少したこと、ネットワーク広告が、販売数、単価共に下落したこと等によります。

当連結会計年度におけるその他売上は、980百万円（前期比2.8%増）となりました。通信キャリアとのレベニューシェア型の売上収益がサービス終了に伴い減少したものの、国内の新規事業にかかる売上収益が増加したこと等によります。

(2) 当期の財政状態の概況

(資産)

当連結会計年度末における資産合計は、前連結会計年度末に比べ2,649百万円減少し、23,863百万円となりました。このうち、流動資産は2,495百万円減少し、22,666百万円となり、非流動資産は153百万円減少し、1,197百万円となりました。

これらの増減の主な要因は、流動資産については、営業活動による支出の増加等により現金及び現金同等物が2,275百万円減少したことによるものです。非流動資産については、クックパッド株式会社の本社移転に伴い有形固定資産が406百万円増加した一方、CookpadTV株式会社の有形固定資産が減損損失の計上により423百万円減少、また同社の繰延税金資産が取り崩しにより234百万円減少したことによるものです。

(負債)

当連結会計年度末における負債合計は、前連結会計年度末に比べ232百万円増加し、2,232百万円となりました。このうち、流動負債は161百万円減少し、1,220百万円となり、非流動負債は394百万円増加し、1,011百万円となりました。

これらの増減の主な要因は、流動負債については、未払消費税等が129百万円減少したことによるものです。非流動負債については、クックパッド株式会社及びCookpadTV株式会社の本社移転により新オフィスのリース負債が549百万円増加した一方、クックパッド株式会社の旧本社退去に伴い資産除去債務が199百万円減少したことによるものです。

(資本)

当連結会計年度末における資本合計は、前連結会計年度末に比べ2,881百万円減少し、21,631百万円となりました。この主な要因は、為替の円安影響等によりその他の資本の構成要素が819百万円増加した一方、利益剰余金が2,380百万円減少したこと、非支配株主持分が588百万円減少したこと、及び自己株式の取得により自己株式が733百万円増加したことによるものです。

(3) 当期のキャッシュ・フローの概況

当連結会計年度末における現金及び現金同等物（以下「資金」という）の残高は、前連結会計年度末に比べ2,275百万円減少し、20,410百万円となりました。各キャッシュ・フローの状況とそれらの要因は以下のとおりです。

(営業活動によるキャッシュ・フロー)

営業活動により支出した資金は、1,772百万円となりました。この主な要因は、国内新規事業に関わる費用及び本社移転に伴う一時的な費用の計上により、税引前当期損失2,595百万円が生じたことによるものです。

(投資活動によるキャッシュ・フロー)

投資活動により支出した資金は、336百万円となりました。この主な要因は、旧本社退去に伴う資産除去債務の履行201百万円が生じたことによるものです。

(財務活動によるキャッシュ・フロー)

財務活動により支出した資金は、1,094百万円となりました。この主な要因は、自己株式の取得による支出733百万円、及びリース負債の返済による支出361百万円が生じたことによるものです。

(4) 今後の見通し

当社グループは、日本を含む世界中の人々に向けて「毎日の料理を楽しむにする」サービスを提供するべく積極的に投資を行っています。2022年12月期の連結業績予想については、引き続き新規事業への投資が先行する予定です。その投資の時期や金額規模については、事業を取り巻く環境の変化に応じて機動的に判断していく想定であるため、記載しておりません。

(5) 利益配分に関する基本方針

当社は、2017年からの10年をさらなる大きな成長のための事業基盤創りに再度注力する「投資フェーズ」として、従って、事業上獲得した資金をサービス開発、ユーザーベース獲得、ブランド構築等の事業拡大のための投資に充当することを優先するため、剰余金の配当は行わない方針です。

2. 会計基準の選択に関する基本的な考え方

当社は、「毎日の料理を楽しむにする」を企業理念とし、日本だけでなく、世界中の人々に向けて世界各国の料理を楽しむにするサービスを提供するべく、世界展開に注力しています。このような状況を踏まえ、財務情報の国際的な比較可能性の向上や開示の拡充により、国内外の株主・投資家などの様々なステークホルダーの皆さまの利便性を高めるため、国際会計基準を適用しています。

3. 連結財務諸表及び主な注記

(1) 連結財政状態計算書

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2020年12月31日)	当連結会計年度 (2021年12月31日)
資産		
流動資産		
現金及び現金同等物	22,685,528	20,410,037
営業債権及びその他の債権	2,065,144	1,709,081
その他の金融資産	6,166	5,529
棚卸資産	32,443	44,654
その他の流動資産	372,581	497,202
流動資産合計	25,161,862	22,666,503
非流動資産		
有形固定資産	521,760	657,095
のれん	140,920	140,920
無形資産	105,922	106,707
その他の金融資産	295,944	220,966
繰延税金資産	275,773	47,257
その他の非流動資産	10,634	24,363
非流動資産合計	1,350,952	1,197,309
資産合計	26,512,813	23,863,812

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2020年12月31日)	当連結会計年度 (2021年12月31日)
負債及び資本		
負債		
流動負債		
リース負債	288,712	347,787
営業債務及びその他の債務	765,137	703,061
その他の金融負債	42,259	96,068
未払法人所得税等	8,455	9,347
その他の流動負債	277,441	64,290
流動負債合計	1,382,005	1,220,552
非流動負債		
リース負債	365,323	886,420
その他の債務	15,324	—
引当金	236,654	125,207
非流動負債合計	617,301	1,011,627
負債合計	1,999,306	2,232,179
資本		
資本金	5,286,015	5,286,015
資本剰余金	7,194,224	7,194,224
利益剰余金	11,365,838	8,985,618
自己株式	△2,022	△735,054
その他の資本の構成要素	△520,558	299,123
親会社の所有者に帰属する持分合計	23,323,497	21,029,926
非支配持分	1,190,011	601,707
資本合計	24,513,508	21,631,633
負債及び資本合計	26,512,813	23,863,812

(2) 連結損益計算書及び連結包括利益計算書

連結損益計算書

(単位：千円)

	前連結会計年度 (自 2020年1月1日 至 2020年12月31日)	当連結会計年度 (自 2021年1月1日 至 2021年12月31日)
売上収益	11,095,929	10,004,258
売上原価	△418,066	△435,169
売上総利益	10,677,863	9,569,089
販売費及び一般管理費	△10,529,050	△12,243,227
その他の収益	83,909	48,169
その他の費用	△5,313	△6,619
営業利益 (△損失)	227,409	△2,632,588
金融収益	8,083	43,291
金融費用	△24,888	△5,800
税引前当期利益 (△損失)	210,604	△2,595,097
法人所得税費用	440	△373,427
当期利益 (△損失)	211,045	△2,968,524
当期利益 (△損失) の帰属		
親会社の所有者	479,359	△2,380,220
非支配持分	△268,314	△588,304
当期利益 (△損失)	211,045	△2,968,524
1株当たり当期利益 (△損失)		
基本的1株当たり当期利益 (△損失)	4.46	△22.41
希薄化後1株当たり当期利益 (△損失)	4.46	△22.41

連結包括利益計算書

(単位：千円)

	前連結会計年度 (自 2020年1月1日 至 2020年12月31日)	当連結会計年度 (自 2021年1月1日 至 2021年12月31日)
当期利益 (△損失)	211,045	△2,968,524
その他の包括利益		
純損益に振り替えられることのない項目		
その他の包括利益を通じて測定する金融 商品の公正価値の純変動	△2,947	298
純損益に振り替えられることのない項目 合計	△2,947	298
純損益に振り替えられる可能性のある項目		
在外営業活動体の換算差額	△311,026	798,428
純損益に振り替えられる可能性のある 項目合計	△311,026	798,428
税引後その他の包括利益	△313,973	798,725
当期包括利益	△102,928	△2,169,799
当期包括利益の帰属		
親会社の所有者	165,387	△1,581,495
非支配持分	△268,314	△588,304
当期包括利益	△102,928	△2,169,799

(3) 連結持分変動計算書

前連結会計年度(自 2020年1月1日 至 2020年12月31日)

(単位：千円)

	親会社の所有者に帰属する持分						非支配 持分	資本合計
	資本金	資本 剰余金	利益 剰余金	自己株式	その他の 資本の 構成要素	親会社の 所有者に 帰属する 持分合計		
2020年1月1日時点の 残高	5,286,015	7,194,224	11,112,155	△2,008	△227,190	23,363,196	1,458,326	24,821,521
会計方針の変更の影響	—	—	△225,676	—	—	△225,676	—	△225,676
会計方針の変更を反映 した当期首残高	5,286,015	7,194,224	10,886,479	△2,008	△227,190	23,137,520	1,458,326	24,595,845
当期利益(△損失)	—	—	479,359	—	—	479,359	△268,314	211,045
その他の包括利益	—	—	—	—	△313,973	△313,973	—	△313,973
当期包括利益合計	—	—	479,359	—	△313,973	165,387	△268,314	△102,928
株式報酬取引	—	—	—	—	20,604	20,604	—	20,604
子会社の支配獲得に 伴う変動	—	—	—	—	—	—	—	—
自己株式の取得	—	—	—	△14	—	△14	—	△14
所有者との取引額合計	—	—	—	△14	20,604	20,590	—	20,590
2020年12月31日時点の 残高	5,286,015	7,194,224	11,365,838	△2,022	△520,558	23,323,497	1,190,011	24,513,508

当連結会計年度(自 2021年1月1日 至 2021年12月31日)

(単位：千円)

	親会社の所有者に帰属する持分						非支配 持分	資本合計
	資本金	資本 剰余金	利益 剰余金	自己株式	その他の 資本の 構成要素	親会社の 所有者に 帰属する 持分合計		
2021年1月1日時点の 残高	5,286,015	7,194,224	11,365,838	△2,022	△520,558	23,323,497	1,190,011	24,513,508
会計方針の変更の影響	—	—	—	—	—	—	—	—
会計方針の変更を反映 した当期首残高	5,286,015	7,194,224	11,365,838	△2,022	△520,558	23,323,497	1,190,011	24,513,508
当期利益(△損失)	—	—	△2,380,220	—	—	△2,380,220	△588,304	△2,968,524
その他の包括利益	—	—	—	—	798,725	798,725	—	798,725
当期包括利益合計	—	—	△2,380,220	—	798,725	△1,581,495	△588,304	△2,169,799
株式報酬取引	—	—	—	—	20,956	20,956	—	20,956
子会社の支配獲得に 伴う変動	—	—	—	—	—	—	0	0
自己株式の取得	—	—	—	△733,032	—	△733,032	—	△733,032
所有者との取引額合計	—	—	—	△733,032	20,956	△712,076	0	△712,076
2021年12月31日時点の 残高	5,286,015	7,194,224	8,985,618	△735,054	299,123	21,029,926	601,707	21,631,633

(4) 連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：千円)

	前連結会計年度 (自 2020年1月1日 至 2020年12月31日)	当連結会計年度 (自 2021年1月1日 至 2021年12月31日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税引前当期利益 (△損失)	210,604	△2,595,097
減損損失	69,556	502,115
減価償却費及び償却費	463,959	513,825
金融収益及び金融費用 (△は益)	95,146	△81,016
営業債権及びその他の債権の増減額 (△は増加)	△250,963	412,346
営業債務及びその他の債務の増減額 (△は減少)	106,185	△91,532
未払消費税等の増減額 (△は減少)	△6,002	△236,460
その他	81,309	△71,639
小計	769,793	△1,647,457
利息及び配当金の受取額	8,083	1,009
利息の支払額	△8,322	△5,292
法人所得税の支払額	△159,312	△120,450
営業活動によるキャッシュ・フロー	610,242	△1,772,191
投資活動によるキャッシュ・フロー		
有形固定資産の取得による支出	△184,626	△150,830
無形資産の取得による支出	△31,553	△29,051
子会社の取得による支出	△53,282	—
敷金及び保証金の差入による支出	△5,384	△136,769
敷金及び保証金の回収による収入	10,932	181,794
資産除去債務の履行による支出	—	△201,993
その他	98,161	456
投資活動によるキャッシュ・フロー	△165,752	△336,393

(単位：千円)

	前連結会計年度 (自 2020年1月1日 至 2020年12月31日)	当連結会計年度 (自 2021年1月1日 至 2021年12月31日)
財務活動によるキャッシュ・フロー		
長期借入金の返済による支出	△40,000	—
リース負債の返済による支出	△388,176	△361,581
自己株式の取得による支出	△14	△733,032
財務活動によるキャッシュ・フロー	△428,189	△1,094,613
現金及び現金同等物の増加額	16,301	△3,203,196
現金及び現金同等物の期首残高	23,105,395	22,685,528
現金及び現金同等物の為替変動による影響	△436,167	927,705
現金及び現金同等物の期末残高	22,685,528	20,410,037

(5) 継続企業の前提に関する注記

該当事項はありません。

(6) 連結財務諸表に関する注記事項

1. 報告企業

クックパッド株式会社(以下、当社)は日本に所在する企業です。本連結財務諸表は2021年12月31日を期末日とし、当社及びその子会社(以下、当社グループ)により構成されています。

当社グループは、「毎日の料理を楽しみにする」を企業理念とし、インターネット上で料理レシピの投稿・検索等が可能な「クックパッド」を中心に事業展開しています。

2. 作成の基礎

(1) IFRSに準拠している旨

当社グループの連結財務諸表は、「連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」(1976年大蔵省令第28号。以下、連結財務諸表規則)第1条の2に定める要件を満たしており、「指定国際会計基準特定会社」に該当しますので、同第93条の規定により、IFRSに準拠して連結財務諸表を作成しています。

(2) 測定の基礎

当社グループの連結財務諸表は、公正価値で測定されている特定の金融商品等を除き、取得原価を基礎として作成しています。

(3) 機能通貨及び表示通貨

当社グループの連結財務諸表は、当社の機能通貨である日本円を表示通貨としており、千円未満を四捨五入して表示しています。

3. 重要な会計方針

本連結財務諸表の作成に適用した重要な会計方針は、以下に示した変更を除き、前連結会計年度の連結財務諸表において適用した会計方針と同一です。

(会計方針の変更)

当社グループでは、従来よりクラウド・コンピューティング契約におけるコンフィギュレーション又はカスタマイゼーションのコストについて、IAS第38号「無形資産」を適用し無形資産を認識しておりましたが、当第2四半期連結会計期間より2021年4月に公表されたIFRS解釈指針委員会のアジェンダ決定に至る議論を踏まえて、コンフィギュレーション又はカスタマイゼーションのサービスを受領したときにそのコストを費用として認識する方法に変更しました。

当該会計方針の変更は遡及適用され、前連結会計年度については遡及適用後の連結財務諸表となっております。

これにより、遡及適用前と比較して、前連結会計年度の販売費及び一般管理費は75,666千円減少し、営業利益及び税引前当期利益はそれぞれ75,666千円増加し、当期利益は73,684千円増加しております。前連結会計年度の連結貸借対照表においては無形資産が156,082千円減少し、繰延税金資産が4,089千円増加しております。

前連結会計年度の期首の純資産額に対する累積的影響額が反映されたことにより、利益剰余金の前連結会計年度期首残高は225,676千円減少しております。

4. 重要な会計上の見積り及び見積りを伴う判断

連結財務諸表の作成において、経営者は、会計方針の適用並びに資産、負債、収益及び費用の金額に影響を及ぼす判断、見積り及び仮定の設定を行うことが義務付けられています。実際の業績は、これらの見積りとは異なる場合があります。

見積り及びその基礎となる仮定は継続して見直します。会計上の見積りの変更による影響は、その見積りを変更した会計期間及び影響を受ける将来の会計期間において認識します。

経営者が行った連結財務諸表の金額に重要な影響を与える見積り及び判断は、前連結会計年度の連結財務諸表と同様です。

5. セグメント情報

当社グループは、「毎日の料理を楽しむに事業」の単一セグメントとなるため、事業分野ごとの収益、損益及びその他項目の記載を省略しています。

6. 一株当たり利益

基本的1株当たり当期利益及び希薄化後1株当たり当期利益は以下のとおりです。

	前連結会計年度 (自 2020年1月1日 至 2020年12月31日)	当連結会計年度 (自 2021年1月1日 至 2021年12月31日)
親会社の所有者に帰属する当期利益(△は損失) (千円)	479,359	△2,380,220
当期利益調整額(千円)	—	—
希薄化後1株当たり当期利益の計算に 使用する当期利益(△は損失)(千円)	479,359	△2,380,220
期中平均普通株式数(株)	107,425,401	106,165,802
普通株式増加数		
新株予約権(株)	18,935	—
希薄化後の期中平均普通株式数(株)	107,444,336	106,165,802
基本的1株当たり当期利益(△は損失)(円)	4.46	△22.41
希薄化後1株当たり当期利益(△は損失)(円)	4.46	△22.41

7. 後発事象

該当事項はありません。